ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									

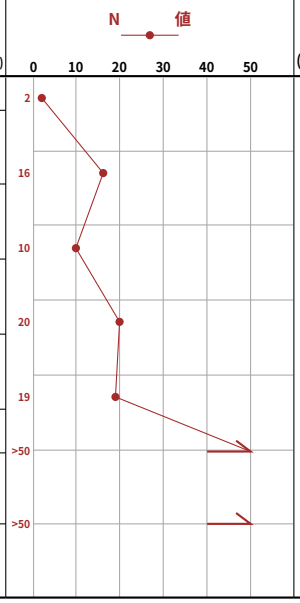
シートNO.

ボーリング名	B-5(付替林道)	調査位置						北　緯	36 ° 51 ' 0.2200 "
発注機関	栃木県　大田原土木事務所			調査期間	2009-07-30 ～ 2009-07-31			東　経	140 ° 11 ' 53.0500 "
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	324.61 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 38.00 °	使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具
総掘進長	6.00 m								エンジン / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	324.06	0.55	0.55		表土 (SF)	暗褐灰	中ぐらい		非常に軟質なシルトから成る。表部10cm間は有機質を帯びる。以深、稀にφ5mm内外の礫分を混入し、やや粘性を増す。		
	323.61	0.45	1.00		礫混り砂質シルト (MS-G)	暗褐灰			含水・粘性共に中位で軟らかい。礫はφ5～20mmの岩片を主体に最大φ60mm程を混入する。		
1					シルト質砂礫 (GSM)	暗灰			礫はφ10～30mmの頁岩片を主体に最大コア長5cm程(推定φ150mm内外)の岩塊をも認める。基質部は砂分と多量のシルト分で構成され、礫間をルーズに埋める。		
2											
3	321.41	2.20	3.20								
					強風化岩 (WR)	茶灰			風化・変質が著しく、岩芯まで組織破壊され、非常に脆弱な岩性を呈している。コアは外周が粘土化した棒状形にて採取され、指で圧すと容易に崩れる。GL-4.8m以深、風化・変質が幾分か弱まり、脆性も低下する。		
4											
5	319.61	1.80	5.00		頁岩 (Sh)	暗灰			ダイヤモンドビットでの掘進が不可欠となる。コアは層理の多発により角礫状を主体とするも、層理頻度の低下区間(GL-5.6m以深)では片状～短棒状で採取される。風化・変質は層理面に沿う褐色化が見られる程度で、岩体自体の硬度劣化は感じられない。		
6	318.61	1.00	6.00								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
0.15		1 / 20	1	2 / 30	2
0.45					
1.15	4	4	8	16 / 30	16
1.45					
2.15	3	3	4	10 / 30	10
2.45					
3.15	5	8	7	20 / 30	20
3.45					
4.15	6	6	7	19 / 30	19
4.45	50 / 5			50 / 5	>50
5.00					
5.05	50 / 0			50 / 0	>50
6.00					
6.00					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						07/30
						07/31